

(1)

2013年5月4日

The Kyodan Times

(1933年12月28日 第三種)
郵便物認可 隔週土曜日発行

第4772・73号

教団新報



フェルディナンド・ホドラー 「生に疲れた人々」
(1892年、ミュンヘン・ノイエピナコテーク蔵)

現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないとわたしは思います。被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。つまり、被造物も、いつか滅びへの隸属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあざかれるからです。被造物がすべて今まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。被造物だけでなく、「靈」の初穂をいただいていたるわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贋われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。

ローマの信徒への手紙 8章 18～25節

定価 1部140円(本体133円+税200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 崎哲夫
編集主筆 長渡義彦
印刷所 株式会社かんし

ペンテコステ メッセージ

靈の初穂をいただいている わたしたち

ローマの信徒への手紙 8章 18～25節



芳賀 力

は決定的に異なる「教会」
そのような靈の注ぎを受
けた時、そこに世の集團と
よつて、あなたがたの死ぬ
はずの体をも生かしてください
さるでしょう」(8・11)。
そのことを知るなら、う
めきは希望に変わり始めま
す。それは、もはやなす術
のない絶望のうめきではな
く、滅びへの隸属から解放
されることを待ち望む希望
は希望ではありません。現
に見ているものだれがな
お望むでしょうか?」
とはいって、救いの歴史を
見る希望は空手形の希望で
はありません。すでに来ら
れ、十字架を通して勝利し
た方の中に、その確かな土
台を持つ希望です。そして
わたしたちは、このよう
な希望によって救われて
いるのです」(8・24)。

使徒はそのような信仰に基づく希望に目覚めた人々のことを「靈の初穂をいただいた者」と呼んでいます。私たち被造物の中にあって、靈の初穂をいただいた者たちなのです。靈の初穂をいただいた者たちは、絶望の中に希望を、疲れの中に癒しを、滅びの中に救いを見る信仰の洞察へと最初に導かれている者たちです。いや、そのように希望を、癒しを、そして救いを経験することができるようになると、自分の力には絶望して、神の靈を祈り求めるようになります。そのような靈の注ぎを受けて、神の靈を祈り求めるようになると、促されている者たちなのです。

「ついに、我々の上に、靈が高い天から注がれる。荒れ野は園となり、園は森と見なされる。そのとき、荒れ野に公平が宿り、園に正義が住まう。正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出すものは、どこで、荒れ野は園に生まれ変わります。荒ぶる心は静められ、愛のない心も神の命(ミッション)になります」(イサヤ32・15～17)。

「ついに、我々の上に、愛で潤い、再び愛することのできる人間に生まれ変わります。「この息子は、死んだときに生き返り」「ルカ15・24」という放浪息子のたとえ話に起ったことが現実のものとなります。そのようにして、もし私たちは死んでいたのに生き返れば、次の「穂」となるべき人々にこの福音を伝えなければ、世界はただ望みなくうめき声を上げるだけの、阿鼻叫喚の世界になってしまいます。荒ぶる心は静められ、愛のない心も神の命(ミッション)になります」(東京神学大学学長)

5人の男が肩を落として長い間に座っています。修道服のようなものを着て、目はうつろに地面を見つめ、祈るために組まれたばかりの上半身をさらけ出し、手を両側にだらりと垂らして、もう祈ることすら諦めてしまったようです。絵に描かれた名前は「生に疲れた人々」。スイスの画家フェルディナンド・ホドラーの作品です。この風変わりな絵は、精も根も尽きた時に表現しています。自分力ではもうどうしようもない現実をつきつけられて、絶望するほかない人間の姿です。いったいどうや

うのでしょう。「被造物は虚無に服して、絵に描かれた名前は「生に疲れた人々」。スイスの画家フェルディナンド・ホドラーの作品です。この風変わりな絵は、精も根も尽きた時に表現しています。自分力ではもうどうしようもない現実をつきつけられて、絶望するほかない人間の姿です。いったいどうや

うのでしょう。「被造物は虚無に服して、絵に描かれた名前は「生に疲れた人々」。スイスの画家フェルディナンド・ホドラーの作品です。この風変わりな絵は、精も根も尽きた時に表現しています。自分力ではもうどうしようもない現実をつきつけられて、絶望するほかない人間の姿です。いったいどうや

うのでしょう。「被造物は虚無に服して、絵に描かれた名前は「生に疲れた人々」。スイスの画家フェルディナンド・ホドラーの作品です。この風変わりな絵は、精も根も尽きた時に表現しています。自分力ではもうどうしようもない現実をつきつけられて、絶望するほかない人間の姿です。いったいどうや

うのでしょう。「被造物は虚無に服して、絵に描かれた名前は「生に疲れた人々」。スイスの画家フェルディナンド・ホドラーの作品です。この風変わりな絵は、精も根も尽きた時に表現しています。自分力ではもうどうしようもない現実をつきつけられて、絶望するほかない人間の姿です。いったいどうや

うのでしょう。「被造物は虚無に服して、絵に描かれた名前は「生に疲れた人々」。スイスの画家フェルディナンド・ホドラーの作品です。この風変わりな絵は、精も根も尽きた時に表現しています。自分力ではもうどうしようもない現実をつきつけられて、絶望するほかない人間の姿です。いったいどうや

うのでしょう。「被造物は虚無に服して、絵に描かれた名前は「生に疲れた人々」。スイスの画家フェルディナンド・ホドラーの作品です。この風変わりな絵は、精も根も尽きた時に表現しています。自分力ではもうどうしようもない現実をつきつけられて、絶望するほかない人間の姿です。いったいどうや

来たれ、聖靈よ

「ついに、我々の上に、愛で潤い、再び愛することのできる人間に生まれ変わります。「この息子は、死んだときに生き返り」「ルカ15・24」という放浪息子のたとえ話に起ったことが現実のものとなります。そのようにして、もし私たちは死んでいたのに生き

返った「靈の初穂」であるならば、次に「穂」となるべき人々にこの福音を伝える必要があります。それが、世界はただ望みなくうめき声を上げるだけの、阿鼻叫喚の世界になってしまうことでしょう。そこで、世界には何

よ。これが古代教会の礼拝で捧げられた祈りでした。この年ペントコステを迎えた年ペントコステを迎える全国の諸教会がこそつて創造主なる聖靈を呼び求める礼拝を捧げ、世界に希望の種を蒔く伝道者が続々と興されるように、切に望みます。どうかそのためにはぜひ祈つていただきたいと思います。

（東京神学大学学長）

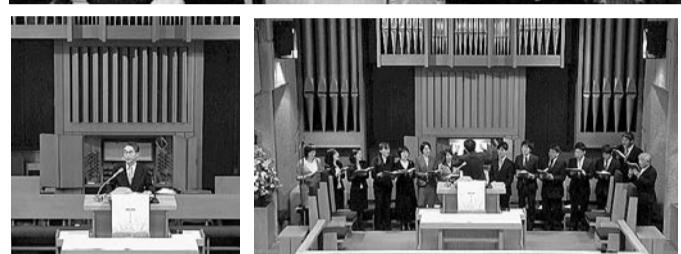
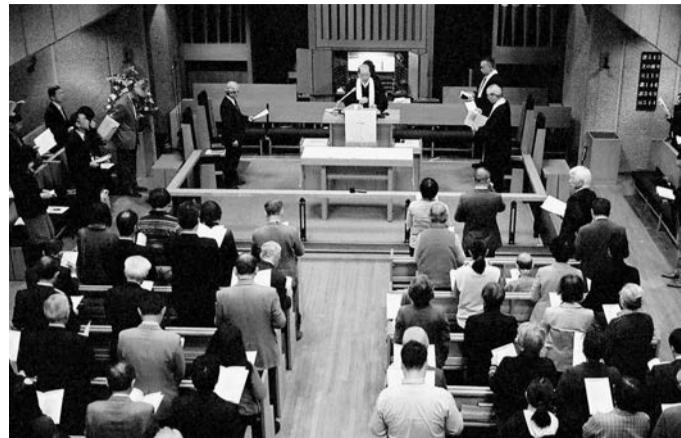
（1853～1918）
スイス・ベルンに生まれる。
世纪末藝術・象徵主義を代
表する画家。

よつて、あなたがたの死ぬ
はずの体をも生かしてください
さるでしょう」(8・11)。
そのことを知るなら、う
めきは希望に変わり始めま
す。それは、もはやなす術
のない絶望のうめきではな
く、滅びへの隸属から解放
されることを待ち望む希望
は希望ではありません。現
に見ているものだれがな
お望むでしょうか?

「信仰に基づく希望です。
見るものに対する希望
は希望ではありません。現
に見ているものだれがな
お望むでしょうか?」
とはいって、救いの歴史を
見る希望は空手形の希望で
はありません。すでに来ら
れ、十字架を通して勝利し
た方の中に、その確かな土
台を持つ希望です。そして
わたしたちは、このよう
な希望によって救われて
いるのです」(8・24)。

お知らせ
「教団新報」今号を47
72・73合併号とし、
次号4774号は6月1
日に発行します。

総幹事 長崎哲夫



上、発足を記念し礼拝を献げる。
下左、近藤氏による記念講演。
下右、東京神学大学コーラス部による奉唱。

記念礼拝には、説教者として小島誠志氏（久万教会牧師）が御言葉を取り次ぎ、「夜明けの岸辺」と題し、ヨハネ福音書21章1～14節をテキストとした。

一晩中、全く収穫がなかった弟子の徒労、岸辺に立つ者からの命令に「結果はわかりきっているとの思いで、仕方なしに網を打った」弟子たちのあきらめから語りはじめられた。

夜が明けて、岸辺に立つ

3月31日、復活日夕刻、伝道推進室発足記念大会が銀座教会にて開催された。第一部記念礼拝は銀座教会の主夕礼拝に合流して守られ、第二部に記念講演が行われた。

記念礼拝には、説教者として小島誠志氏（久万教会牧師）が御言葉を取り次ぎ、「夜明けの岸辺」と題し、ヨハネ福音書21章1～14節をテキストとした。

2013年3月31日
於 銀座教会

日本基督教団 伝道推進室 発足記念大会

伝道を推し進めるために

者によって、決定的な場面転換が起こっていることにまだ弟子たちは気付いていない。しかし、新しいときを既に迎え「復活の主が弟子たちの働きの意味が決めて変わっている」弟子たちが主に気付くときは、

され

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

(3)

2013年5月4日

教 团 新 報

(第三種郵便物認可)

第4772・73号

▼神学校等人権教育懇談会▼

フィールドワークを実施



神学校等人権教育懇談会

3月22日、第26回神学校等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪府和泉市）にて開催された。神学校教員、部落解放センタースタッフなど12名が参加した。

まずは全体会の開会に先立つて全員で水平社宣言を読み上げた。開会礼拝ではコロ

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行するのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷誠さんから、和泉市の被差別部落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

まずは全体会の開会に先立つて全員で水平社宣言を読み上げた。開会礼拝ではコロ

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

難しさと重要性、学生のお

かれた社会的状況の変化に

学神学部准教授

（岩野祐介報／関西学院大

3月22日、第26回神学校

等人権教育懇談会が、日本基督教団いすみ教会（大阪

府和泉市）にて開催された。

神学校教員、部落解放セン

タースタッフなど12名が参

加した。

サイ書1・9～20が読まれ、関西学院大学神学部の岩野

祐介が、学問として神学を教える学校であることと、社会において行動する主体であることは不可分であるが、それを本当に実行す

るのは困難であり、ともに祈りあう必要がある。ではないか、とスッセナジを述べた。

続いて参加者自己紹介の後、部落解放センターの運営委員長であり、いすみ教会教員でもある講師の東谷

誠さんから、和泉市の被差別部

落との歴史についてお聞きし、フィールド

ワークへと向か

第2回「東日本大震災国際神学シンポジウム」

いかにしてもう一度立ち上がるか—これから100年を見据えて—

3月27日、東日本大震災
救援キリスト者連絡会、聖

2011年に日本が経験した破壊と苦難を生ける神

つて試練や苦難の中にある人々に寄り添い、その場所

うっている多くの人々に福音を明確に語り、今、この時、

い思いを持って九州教区を
＜6月20日～7月3日＞
一（小林明、大川祈、金
）が九州教区の協力を得
合い、地域の様々なこと
「パン」を行います。
キャラバン大集合
2日（火）午後6時半
米東町教会
部落解放講座（7月2日～
大集合を行います。
解放センターHPへ
(TEL 070-3755-2170)

発題者(敬称略)		発題
山口陽一	東京基督教大学大学院教授	東北ハリストス正教会
川上直哉	東北ヘルプ事務局長	ポスト・フクシマの被災地における教会と社会
木田惠嗣	福島県キリスト教連絡会会长	原発とキリスト者1—福島の放射能汚染の現状と課題
窪寺俊之	聖学院大学教授	大震災と心のケア—喪失と怒りへのケア
吉田久仁子	いわき・清風幼稚園園長	震災における教派・教会を越えた出会い
松本 周	聖学院大学総合研究所助教	
ジョナサン・ウィルソン	クラッシュ・ジャパン代表	3・11から学ぶキリスト者の災害対応
米内宏明	Sola代表・日本バプテスト教会連合理事長	被災地の子どもの心のゆくえ「よかったです」の回復
平田美穂	Sola現地ディレクター	
福嶋 揚	青山学院大学講師	原発とキリスト者2—脱核の倫理の探究一日独戦後史をめぐる一断想
井形英絵	日本バプテスト連盟南北台キリスト教会牧師	「弔い」と震災後の展開について—内陸部地震被災地域の牧師として
安藤能成	日本福音同盟理事長	国民統合、自衛隊と教会
小川 真	キリスト者学生会関東地区主事	
野田 沢	日本基督教団学生キリスト交友愛会主事	青年と震災

3月27日、東日本大震災救援キリスト者連絡会、聖学院大学総合研究所、東京基督教大学主催、フラー神学大学共催で、第2回東日本大震災国際神学シンポジウムがお茶の水クリスチヤン・センターを会場に開催された。「苦難に寄り添い前に向かう教会」をテーマに、日米の神学者たちがこれまで100年先の日本のキリスト教会のあり方を見据えつつ教会に伝え互いに励まし合いながら現在なきなければならない働きについて論じ合った。

阿久戸光晴牧師（聖学院大学学長・理事長）の開会祈祷、挨拶があり、続いてリチャード・J・マウ氏（フラー神学大学院学長）より「神の忍耐の時」の中で、「苦難の救い主に仕える」との主題講演がなされた。この主題講演がなされた。

パネル・ディスカッションは藤原淳賀氏（聖学院大学総合研究所教授）のコーディネートにより、伊藤悟氏（青山学院大学教授）・ギリスト教大学の行うボランティアとは何か－直面する二つの問い』、岡村直樹氏（東京基督教大学教授）震災ボランティア活動と若者の宗教心の発達』、幸田和生氏（カトリック東京教区補佐司教・カリタスジャパン担当司教）『カトリック教会の立場から』、藤掛明氏（聖学院大学准教授）『心理臨床家として考えさせられる』との各発表がなされた。

参加者一同、讃美歌31「いつくしみ深き」を歌ふ。これを受けてマウ氏は

2011年に日本が経験した破壊と苦難を生ける神への信仰の中でのように認識すべきかを共に考え、このような困難な状況下でどのように主に仕えるかという計画を提案したいと述べ、「神が御子の受肉により、私たちの苦悩の中に入つて来られたことを認識する」ということは慰めの源泉であり、キリスト者共同体にとつての行動の根拠となる、「私たちが召されている忍耐は受け身的に待つことではなく、これから時が満ちて訪れる王国の到来を積極的に待ち望むこと。そして聖書は私たちに、この積極的で待ち望む姿勢の中に非常に広い任務を与えている」、「仕えるようにと主が私たちを召された場所で神の栄光をあらわす誓えるを行いを遂行することによる行いを遂行することによつて試練や苦難の中にある人々に寄り添い、その場所のシャローム（平和、正義）を求める」と語った。

パネル・ディスカッションは藤原淳賀氏（聖学院大学総合研究所教授）のコーディネートにより、伊藤悟氏（青山学院大学教授）・ギリスト教大学の行うボランティアとは何か－直面する二つの問い』、岡村直樹氏（東京基督教大学教授）震災ボランティア活動と若者の宗教心の発達』、幸田和生氏（カトリック東京教区補佐司教・カリタスジャパン担当司教）『カトリック教会の立場から』、藤掛明氏（聖学院大学准教授）『心理臨床家として考えさせられる』との各発表がなされた。

2「いつくしみ深き」を歌ふ。これを受けてマウ氏は

その後、11の分科会に分かれ、各発題、質疑応答がなされた。

閉会礼拝で東野尚志牧師（聖学院教会）が「嘆きの心に贊美の衣をまとつて」（イザヤ書64章1～4節）と題し説教、人間の物語の中に神がいてくださるのでなく、神の物語に私たちが招き入れられている恵みが確認された。そしてキリストの中に生かされ、苦しみ嘆くところに贊美の衣なるキリストをまとい、共に立ち上がる希望が語られた。

（松本のぞみ報）

**解放
ラバン 2013**
持つて九州教区を
0日～7月3日
木明、大川祈、金
州教区の協力を得
地域の様々なこと
を行います。
大集合
(C) 午後6時半
教會
講座(7月2日～
を行います。
ター HP へ
050-377-0173

(1) 169-0051 東京都新宿区西早稻田2
-3-18-31 TEL 03-3202-0544,
FAX 03-3207-3918)

◎日 時 2013年7月20日（土）～30日（火）

◎受け入れ教会 第一シダーパーク合同メソジスト教会（テキサス州オースティン）

◎参加資格 15歳～22歳（未受洗者可）

◎費用 10万円以内、渡航費の半額を日本基督教団が負担。日本国内の移動・宿泊費用は個人負担（但し、被災地、特に福島からの参加者の渡航費用は別途補助）

◎必要書類 ①申し込み用紙 ②参加希望理由書
（形式自由、A4用紙一枚程度、和文） ③牧師推薦状（形式自由、A4用紙一枚程度、和文） ④スポーツコピー ⑤保護者の同意書（18歳未満のみ）以上を郵送またはファックス送付

◎申込締切 2013年5月15日（水）必着

◎申し込み・問合せ先 伝道委員会・伝道推進室

4月8日～12日に台北市で開催された台湾基督長老教会(PCT)総会に、高橋和人東北教区議長、加藤誠世界宣教幹事と共に出席した。開会式の後、私が教団代表として挨拶をし、PCTが教団の東日本大震災支援に多大な献金をしてくださったことに感謝を述べた。選挙があり、新議長に、許栄農牧師が選ばれ、新総幹事に林芳仲牧師が選任された。

この総会の主題は「わが国家台灣を愛し、キリストの福音を宣べ伝える」であった。奇しくもわが教団の「伝道に燃える教団」といふ主題と共に通じて、嬉しかった。

PCTは海外の教会との交わりを大切にしている。それは、海外諸教会からのゲストが多いことからだ。総会に出席して、台湾基督長老教会の活動を体験する。総会2日目に、PCTとミャンマー長老教会、及び東洋ローラ・キリスト伝道教会との宣教協約調印式が行われた。東洋ローラ・キリスト伝道教会は40の教会で、台湾全体の道義的立場を確かにしておられることがわかる。

(教団総会副議長 伊藤瑞男)